

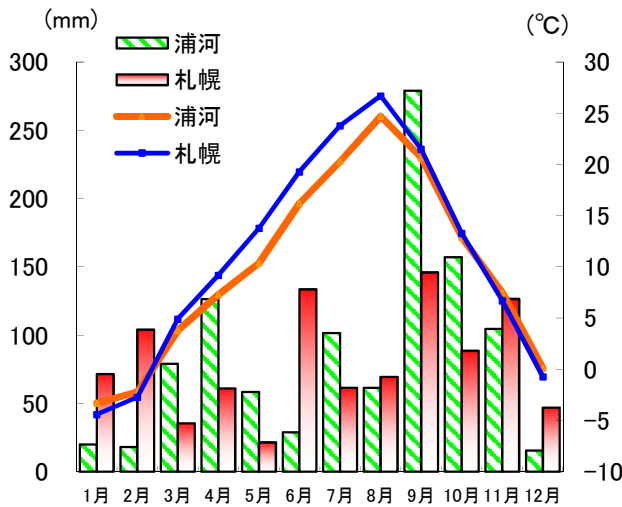
## 気象

日高管内の気候は、積雪寒冷地帯である本道にあって、比較的温暖で積雪量も少なくなっていますが、太平洋に面する沿岸地域と内陸部では、差異がみられます。

沿岸地域では、海洋性気候を示し、四季及び昼夜の変化は比較的少なく、降雪量も少ないが、降水量は、やや多くなっています。

一方、内陸部では、大陸性気候の傾向を示し、気温の変化が大きく、降雪量も多くなっています。

■月別の平均気温と降水量(2023年)



アポイ岳

■主な気象の指標(2023年)

区分	気温(°C)			年間降水量(mm)	年間降雪量(cm)	風速(m/s)			日照時間(h)
	平均	最高(極値)	最低(極値)			平均	最大	最大瞬間	
札幌	11.0	36.3	-13.2	966.0	389	3.3	16.5	25.4	1,889.6
日高	8.0	35.2	-22.9	1,375.5	373	1.6	8.0	18.6	1,574.3
浦河	9.9	31.5	-13.0	1,050.0	109	3.8	22.5	31.2	2,004.8
えりも岬	9.1	28.5	-11.7	817.5	-	8.3	29.2	37.5	2,152.7

注:「-」は観測をしていない。  
日高:旧日高町の地区。

(気象庁HP気象統計情報より)

## 自然

雄大な自然に恵まれた管内は、その大部分を北海道の背骨といわれる日高山脈に覆われています。

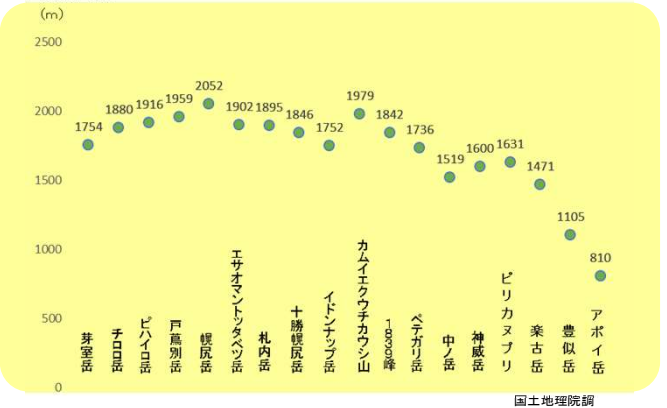
日高山脈は、最高峰の幌尻岳をはじめ、30あまりの山が南北約150kmに連なり、氷河の痕跡「カール」や稜線が鋭く切れ込んだ「ナイフリッジ」などの地形がその特徴です。

わが国最大の国立公園である「日高山脈襟裳国立公園」は、日高山脈、アポイ岳周辺、広尾～襟裳岬の海岸線一帯から構成され、優れた景観を有し、ヒグマやエゾシカ、ゼニガタアザラシなどの野生動物も多く生息しています。また、アポイ岳は高山植物の宝庫と言われ、地元住民による熱心な保全活動が行われています。

なお、現在環境省によって、国立公園化への取り組みが進められています。

また、平野部は牧場が広がり、優駿が草をはむ牧歌的風景がみられ、観光資源のひとつにもなっています。

■主な山岳



国土地理院調

### 「アポイ岳ジオパーク」の認定

アポイ岳とその周辺地域は、地球深部から押し上げられたマントル(学術的には「幌満かんらん岩」)が地上に現れた場所で、ほとんど変質せず新鮮な状態で地球深部の情報が保たれていることや、そこに生育する高山植物などの貴重な自然が評価され、平成20年12月に「日本ジオパーク」に、平成27年9月には「世界ジオパーク」に認定されました。

なお、ジオパークとは、大地(ジオ)を科学的に見て、重要な地形、地層、岩石などの遺産を含んだ自然に親しむためのエリア(パーク)で、場所だけではなく、その地域ならではの暮らしや祭りなどそこに住む人たちの文化も含まれます。令和4年1月現在、日本ジオパークには46地域、そのうち9地域が世界ジオパークに認定されています。



ジオサイトマップ